

青刈作物（ライ麦・えん麦）の生育特性と利用方法

（畜試 草地部）

1. 背景とねらい

岩手県の二毛作体系における冬作物としてライ麦は最も重要な作物である。二毛作体系においては、できるだけ熟期の早い品種を栽培し、出穂始期～出穂期の刈取適期に収穫し、遅くとも6月初めまでにサイレージ用とうもろこしを播種しなければ安定した収量が望めない。これらのことから最近では品種改良が進み、極早生のライ麦が多数流通している。当該においてもそれらの特性比較を行っており、早春から開花期までの収量・栄養パターンを作成した。さらにこれをもとにメッシュデータを利用し県内各地の刈取適期を把握した。また、えん麦の形態別タイプに合わせた利用方法並びに優良品種を選定したので参考に供する。

2. 技術の内容

(1) ライ麦

二毛作における早生・多収な品種としてハルワセ・初春・キングライ麦・サムサンラズが有望で、推奨品種のペトクーザはこれらより約10日遅く二毛作には適さない。

有望4品種の単純積算温度と草丈伸長・熟期・収量の関係から地域別の刈取適期をメッシュデータを用いて推定した。例えば、県中部（盛岡）で青刈給与開始期（穂ばらみ期）は単純積算温度380℃の5月12日頃で、サイレージ調製適期の出穂始期～出穂期は5月17～20日（単純積算温度450～500℃）頃と推定される。

地域	穂ばらみ期 (単純積算温度) 1月1日より380℃	出穂始期 (単純積算温度) 1月1日より450℃	出穂期 (単純積算温度) 1月1日より500℃
一関	4月30日	5月 5日	5月 9日
水沢	5月10日	5月15日	5月18日
盛岡	5月12日	5月17日	5月20日
宮古	4月27日	5月 3日	5月 7日
岩泉	5月 8日	5月13日	5月17日

(2) えん麦の有望品種の特徴

品種名	早晚性	特 徴
ハルアオバ	中晩生	茎が太く、葉も広く、直立型である。 春播きでは出穂する（播種2カ月後）が、秋作（年内利用）では出穂しない。よって青刈利用に適する。 「前進」とほぼ同じ熟期で、「前進」を上回る収量性がある（生草4 t・乾物1 t/10 a）。
ハヤテ エンダックス	極早生	春播き・秋作（年内利用）ともに出穂する。 約2カ月で糊熟期に達するので、短期間の利用に適する。 青刈・乾草利用のほか子実の割合が高いのでホールクロップサイレージにも適する。
乾草えん麦 ヘイオーツ	早 生	茎が細く、直立型で外観も牧草に似ている。 春播きでは梅雨明け後に出穂期に達する（生草4 t/10 a）が、秋作（年内利用）では出穂にまで至らない。 乾燥速度も2番草の牧草（オーチャードグラス・トールフェスク）より乾き易い。よって乾草調製に適する。

3. 指導上の留意点

ライ麦の刈取適期は平年の予想なので、各年の気象を考慮して使用すること。

4. 試験成績

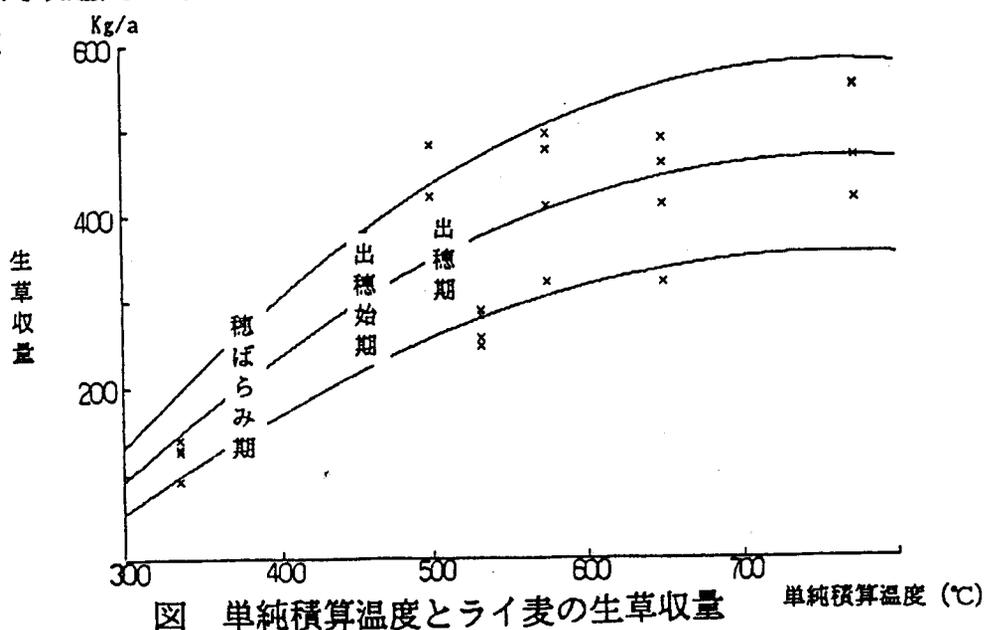


図 単純積算温度とライ麦の生草収量